

平成二十一年度 入学試験問題

国語

第二回

【注意事項】

- 一、試験時間は五〇分です。(八時五〇分～九時四〇分)
- 一、問題は一ページから六ページまでです。
- 一、解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- 一、問いの中で、字数の指示がある場合は、句読点、記号等も字数に含みます。
- 一、解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

対話が★破綻する前提には、「会話とは自分の意見や話を披露する場」という思い込みがある。多くの人は、話を聞くより、話すことのほうが好きだし、聞くことより話すことに多くの関心を払っているものだ。会話にのぞんで、「自分の思いを理解してもらおう」「自分の話を楽しんでもらおう」「自分の言うとおりにしてもらいたい」といったガンボウをもつのだ。

しかし、聞くことより話すことに意識が集中すれば、相手が話しているあいだの時間は、次に自分は何を話すかを考える時間になる。相手に話をする猶予を与えたととしても、それは自分が話すためのジュンビ時間であり、聞くことに神経はいっていない。

このような状態では、相手も同じ心理状態になりがちで、うっかりすると、互いに★モノローグをぶつけ合うだけになってしまう。

ただ自分の話をしたいだけで、あなたの話を聞く気のないことが明らかだが、あなたの前にいたとする。あなたは、この人との会話にキタイをするだろうか。もちろん、教師との対話や取材のように、何かを教えるもらうことを目的として会っているならば、相手から一方的に情報を得るかたちでも価値はあるだろう。しかし「会話」というのは、自分の話を聞く意思のない人とのあいだには成り立たない。

会話を実りあるものにするには、話すこと以上に、聞くことを大切にしなければならぬ。会話において、「聞く」という行為は、相手の「受容」を意味する。受容を一言で表現するなら、「あなたの話をしっかりと聞きます」という姿勢のことだ。

では「話をしっかりと聞く」というのは、具体的に、どのようにすることであろうか。

それは、まず相手の話す言葉に注目し、言葉を聞き逃さないようにすることである。さらに、相手がどのような表情、しぐさ、声の調子で言葉を発しているかに注目する。そうして、相手の話を否定も肯定もしないで聞くことができれば、さらに好ましい。

相手の思いを否定した対応が、会話を成り立たなくさせてしまうのは明らかである。思いを否定するというのは、要するに「会話の意思はありませんが」というメッセージを伝えることであり、最悪の態度である。また、思いは否定しないまでも、「私はそうは思いません」という意思を示せば、

相手は「受け入れられていない」という思いを抱く。

では、肯定をすることも、真の受容にはならないというのは、どういことだろうか。

たとえば、「私はこのシステム自体が間違っていると思います」という相手の意見に対して、「私もそうだと思います」とあなたが答えたとする。そうなると、あとの会話は「いかにこのシステムが間違っているか」「どうすればこのシステムが改善できるか」というテーマに終始することになる。しかし、もしかしたら、相手が本当に話したかったのは、「このシステム」のことではなかったかもしれない。また、話したかったのが「このシステム」のことであったとしても、本来は、もっとさまざまな角度から「このシステム」について語りたかったのかもしれない。

一方、「私もそうだと思いますよ」といった時点で、相手は、あなたが同意だということ前提にして話をするようになる。しかし、実際には、相手が「間違っている」と感じている部分と、あなたが「間違っている」と感じている部分は、まったく異なる場合もありうるのだ。話を十分に聞かずに同意することで、誤解が生じることは多い。

一度、同意をしてみましたあとで、「やっぱりあなたの意見には反対です」とは言いにくいものだ。「よく聞いてみるとずいぶん違うけれど、まあいいや」と思えば、話への(4)力は低下する。そこで意を決して、「やっぱりあなたの意見には反対です」と言ったら、相手は「賛成しておきながら、ここまできて意見を変えるのか」と思い、裏切られたような気分を味わう。このように、(5)会話の方向が右往左往する状況も、受容を妨げる要因になる。

「話をしっかりと聞く」ということは、もう少し(エ)ゲンミツにいえば、「相手」がどのような話をして、それに寄り添って付いていく」ということだ。

会話において、自分の話したいことを「この人に聞いてもらいたい」と感じさせるポイントは、この「受容」にある。「もしかしたら、とんでもないところまで行ってしまってもいいけれど、私はいっしょに行きますよ」という意思を示してもらえると、人は非常に話しやすくなり、自分の思いを伝えたいという意欲を高めるものだ。

賛成も反対もせず、何らかの先入観や固定観念、既成概念をひとまず脇に置いて、相手の話を聞くことに集中する——これが真の受容である。先入観や固定観念、既成概念を前提として話を聞いていると、聞き手独自の枠

組みをつくり上げ、その枠組みに入るものを歓迎し、その枠組みからはみ出すものを否定する結果になり、相手は「受け入れられていない」という思いを抱くことになる。

(オ) ジェンに枠組みをつくってしまいう聞き方を、話し手は敏感に察知する。「ああ、この人は、自分の枠組みの範囲でしか私の話は聞いてくれない」と判断し、自分が感じたり思ったりしたことを語って、理解してもらおうという意欲を喪失してしまう。

特にこうした枠組みの存在がはっきり読みとれるのは、教師と生徒、親と子ども、★上司と部下のように、地位の上の者が地位の下の者の話を聞く場合で、このような状況では聞き方も受容とはほど遠いものとなる。相手への敬意や信頼の欠如から、相手の言うことを最初から価値の低いものと判断してしまうことを、★心理学では「プロセス・ロス」と呼び、コミュニケーション上の大きな損失と位置づけている。

賛成も反対もせず、先入観や固定観念、既成概念をもたずに相手の意見をひたすら聞くという聞き方は、けっして簡単ではない。自分の価値観にそぐわなければ、否定したくなるのが人情だし、ただ話を聞いているだけでは、話し手自身が張り合いを感じられない。

もし、あなたが話しているときに、相手がじっと耳を傾けて話を聞いてくれていたとしても、何の返答も反応も返してくれなかったら、あなたはどうか感じるだろうか。「この人は本当に聞いてくれているのだろうか」と不安になるのが普通ではないだろうか。

(6) 受容しながら相手の話を聞き、相手の言いたいことを語らせてあげ、しかも会話を実のあるものにするために重要なのは、「しぐさ」と「相づち」、それと「質問」である。

(鈴木秀子『心の対話者』)

★破綻………物事がうまくいかなくなること。

★モノローグ………ひとりで言うせりふ。

★喪失………失いなくすこと。

★上司………役所や会社などでその人より地位が高い人。

★心理学………精神の働きについて研究する学問。

65

70

75

80

85

問一

——線(1)「同じ心理状態」とありますが、どのような心理状態ですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が話すことばかりを考えて、相手が話していてもそれを聞くことがおろそかになっている心理状態。

イ 自分が話すことにすべての神経が集中して、相手に話す時間を与える余裕がなくなっている心理状態。

ウ 自分の意見を披露する場だと考えて、相手が聞きやすいような配慮を持ってなくなっている心理状態。

エ 自分の話し方によって相手を楽しませることを意識するあまり、内容に考えが及ばなくなっている心理状態。

問二

——線(2)「教師との対話」とありますが、生徒にとって教師との対話が普通の「会話」と違うのは、どのような点ですか。本文の表現を用いて五十文字以内で説明しなさい。ただし、解答らんにある「自分の」に続くようにすること。

問三

——線(3)「真の受容」とありますが、真の受容をするために必要なのは、具体的にはどのような姿勢ですか。この箇所より前の本文の表現を用いて五十文字以内で説明しなさい。

問四

(4) に入れるのに最もふさわしい漢字二字を本文から抜き出しなさい。

問五

——線(5)「会話の方向が右往左往する状況も、受容を妨げる」とありますが、その結果、どのようなようになりますか。本文の表現を用いて四十文字以内で説明しなさい。

問六

——線(6)「受容しながら相手の話を聞き、相手の言いたいことを語らせてあげ、しかも会話を実のあるものにするために重要なものは、「しぐさ」と「相づち」、それと「質問」である。」とありますが、「しぐさ」「相づち」「質問」をまとめて表現している漢字二字のことばを二つ本文から抜き出しなさい。

問七 — 線(ア) (オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八 本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私たちが相手を受け入れるために重要なことは、優越感ゆうえつかんや上下意識を持たないことである。そして会話で大切なことは自分が話したいという気持ちをおさえて相手の言うことを本気で聞くことであり、できるだけ肯定することである。

イ 私たちが相手を受け入れるために重要なことは、賛成や反対をしないで先入観や固定観念、既成概念をひとまず置いて相手の話を聞くことである。そして会話中は相手が自分の話を本当に聞いてくれていると思うような言動をすることである。

ウ 私たちが相手を受け入れるために重要なことは、相手の思いを否定した応対を可能なかぎりおさえて自分の枠組みをつくらないことである。そして会話において大切なことは自分の価値観をもとにして相手への敬意を言葉で表現することである。

エ 私たちが相手を受け入れるために重要なことは、相手の意見や考えを十分に聞かずに同意することから生じる誤解をさけることである。そして会話で大切なことは先入観や固定観念、既成概念による自分の価値観を信用しすぎないことである。

2 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

かれは年をとっていた。★メキシコ湾流に小舟を浮かべ、ひとりて魚をとって日をおくっていたが、一匹も釣れない日が八十四日もつづいた。はじめの四十日はひとりの少年がついていた。しかし一匹も釣れない日が四十日もつづくと、少年の両親は、もう老人がすっかりサラオになってしまったのだといった。サラオとはスペイン語で最悪の事態を意味することばだ。少年は両親のいいつけにしたがい、べつの舟に乗りこんで漁に出かけ、最初の一週間で、みごとに魚を三匹も釣りあげた。(1)老人が来る日も来る日も空の小舟で帰ってくるのを見るのが、少年にはなによりも辛かった。かれはいつも老人を迎えにいき、★巻綱や魚鉤や銛を、それからマストに巻きつけた帆などをしまいこむ。(2)手つだいをしてやった。帆はあちこちに粉袋の継ぎが当ててあったが、それをマストにぐるぐる巻きにした格好は、永遠の敗北を象徴する旗印としか見えなかった。

老人の四肢はやせこけ、★項には深い皺が刻みこまれていた。熱帯の海が反射する太陽の熱で、老人の頬には皮膚癌をおもわせる褐色のしみができ、それが顔の両側にずつと下のほうまで点々とひろがっている。両手にはところどころ深い傷痕が見える。綱を操って大魚をとらえるときにできたものだ。が、いずれも新しい傷ではない。魚の棲まぬ砂漠の★蝕壊地帯のように古く乾からびていた。

この男に関するかぎり、なにもかも古かった。ただ眼だけがちがう。それは海とおなじ色をとたえ、不屈な生気をみなぎらせていた。

「サンチャゴ」少年は小舟を引きあげてある砂地を登りながらいった、「また一緒に行きたくないあ。金もいくらかたまったもの」

これまで老人は少年に魚をとるすべを教えてきた。そして少年は老人を慕っていた。

「いけないよ」老人はいった、(3)「お前の乗りこんでいる舟には運がついている。仲間と一緒にいるこつたな」

「でも、覚えているだろう！ 八十七日も不漁がつづいたあとで、ぼくたち、三週間ずつと毎日、大きなやつを何匹も釣ったことがあったじゃないか」「覚えてるよ」老人はいった、「知ってるよ、お前が離れていったのは、おれの腕を疑ったからじゃない」

「おとつあんだよ、いけないっていったのは。ぼくは子供だ。いうこと

30

25

20

15

10

5

をきかなくちやならないんだ」

(4)「わかつてるよ」老人はいった、「そういうものさ」

「おとつあんに人は信じてることができないんだね」

「そうだ」と老人はいった、「だが、(5)おれたちにはそれができる。そうじゃないかね？」

「うん」と少年はいった、「テラス軒でビールをおごらせてくれないか、道具はそのあとで運べばいい」

「よしきた、漁師仲間には遠慮はいらないものなあ」老人は応えた。

テラス軒で二人が腰をおろしていると、漁師たちが老人をいい慰みものにして話しかけてきた、が、老人は怒らない。なかには、年とった漁師など、かれを見て心を暗くするものもいた。しかし、そんな気持ちはずこしも表にあらわさず、その日の潮流がどうか、どのくらいの深さに綱をおろしたとか、この天気は三分つづくとか、それから自分たちの出あつたいろんなものについて、愛想よく話を交わしている。大きな獲物にありついたら漁師たちは、もうとつづくに戻ってきていた。釣りあげたまかじきはずで屠られ、その肉をいっぱいに敷き並べた二枚の板を、二人の男がそれぞれその両端を持ってよるめきながら貯蔵所のほうへ運んでいく。かれらは、そこで★ハバナの魚市に運ぶ冷蔵トラックを待つのだ。鮫をとった連中も、入江の反対岸にある鮫工場に獲物を運びとどけてしまっていた。そこでは、鮫は絞輦で吊りあげられると、肝臓をえぐりとられ、ひれを切り落され、皮を剥がれたあげく、塩漬けにするために切りきざまれるのである。

風が東から吹くと、港を横切つて鮫工場の臭気がここまで漂ってくる。だが、きょうはほんのちよつと臭うだけだ、風が北寄りに回り、それもすぐ風いでしまったからだ。テラス軒の店先は気持ちよく、陽がいっぱいにあたっていった。

「サンチャゴ」と少年は呼びかけた。

「う」老人はグラスを握りしめたまま、昔のことを想い浮かべていた。

「あしたの鯛をとってきてあげようか？」

「いいよ。野球でもしておいで。おれはまだ漕げる。それに口ヘリオが投網をやってくれるだろう」

「でも、ぼく、したいんだよ。一緒に出かけられないんだもの、なにか役にたきたいんだ」

「お前はビールをおごってくれた」と老人はいった、「もう一人前の大人

60

55

50

45

40

35

じゃないか」

「一番はじめに、ぼくを漁に連れてってくれたのは、いくつとき?」

「五つときだ。魚を釣りあげたとき、やつ、まだびんびんしててな、お前はすんでのところで殺されそうになったつけ。なにしろ、やつ、舟をめちゃくちゃにしてしまいがつてな。覚えてるかい?」

「うん、覚えている。魚のやつ、尻尾しっぽでものごくあばれまわってさ、舟の横木を折っちゃったろう。魚を棍棒こんぼうでぶんなぐる音を覚えているよ。お爺さんじい、ぼくをへさきにつきとぼしたじゃないか。そこんとこにぬれた巻綱まきづながあったつけ。舟がぐらぐらゆれてたね。お爺さんはまるで木樵きせうが鉈なたで樹を切るみたいに魚をぶんなぐっていた。棍棒の音がきこえるようだ。血の匂におがいつばいだったね」

「そりゃあ、お前、ほんとに覚えているのかな。おれの話覚えてるんじゃないかね?」

「ぼく、みんな覚えているよ、はじめてのときからずっと」

老人は日やけた、信頼しんらい深げな、やさしい眼で少年を見つめた。

「もしお前がおれの子だったら、もう一度つれてって、★一か八か、やつてみるんだが」と老人はいった、「でも、お前は、お前の親父おやしの子供だ、それからおふくろのな。それに、お前の乗ってる舟には運がついている」

「鯛をとってこようか?それから、ぼく、大きい、餌魚えうおだつていつものとおりに四つくらいなんとかできるよ」

「きょうのがまだ残っている。塩漬しんじけにして箱にしまつてあるんだ」

「四つとも、新しいものを探してきてあげるよ」

「一つでいい」と老人はいった。かれのうちには、希望と自信とがまだ燃えつきていない。それがいま、風とともに新しく立ちかえってきた。

「二つ持つてくるよ」と少年はいった。

「(7) 老人は折れていった、「まさか盗ぬすんだんじゃないだろうな?」

「その気になれば盗めるさ。でも買ったんだよ」

「すまないな」と老人はいった。かれは単純な人間だったので、いつから自分はこうも人に気がねするようになったかなどと考えはしない。しかし、いつのまにか自分は人に気がねするようになったとおもう。同時に、それはなにも不名誉ふめいよなことではない、本当の誇ほこりをいささかも傷つけはしないと考えていた。

95

90

85

80

75

70

65

「潮の調子がこのぶんだと、あしたはいい天気になるぞ」と老人はいった。「どこいら辺まで行くつもりだい?」少年はたずねる。

「うんと遠出をして、風が変りしだい帰ってくることにしよう。まだ夜が明けないうちに沖へ出てしまつつもりだ」

(ヘミングウェイ 福田恆存訳『老人と海』)

★メキシコ湾流……メキシコ湾から北東に進む大きな暖流。

★巻綱まきづなや魚鉤いさづりや銆もり……漁をするときの道具。

★四肢……両手両足。

★項うで……首の後ろの部分。

★蝕くさ壊地帯……川・波・風などによって浸食された土地。

★まかじき……マカジキ科の海魚。全長三メートルに達する。

★屠ほふられ……体を切りさかれ。

★ハバナ……キューバ共和国の首都。メキシコ湾にのぞむ港湾都市。

★絞こ輓く……大きな魚などをつり上げる道具。

★一か八か……運を天にまかせて思い切つてやつてみることに。

★餌魚……大きな魚をとるときのえさにする魚。

問一

——線(1)「老人が来る日も来る日も空の小舟で帰ってくるのを見るのが、少年にはなによりも辛つらかった。」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少年は、五歳の時から漁につれていってもらい、命まで助けられたのにいまだに恩返しができないから。

イ 少年は、老人の漁師としての腕を疑ってはいないが、老人は一匹も釣れない日が八十四日もの間続いているから。

ウ 少年は、老人の漁師としての腕を信じてはいるが、何しろ高齢であり、漁をするのもう限界であると思つていいるから。

エ 少年は、老人が頬ほおに皮膚癌ひふがんのようなしみまでできているのを見て、本当の癌がんになったのではないかと思つたから。

問二

——線(2)「手つだいをしてやった。」とありますが、少年はどのような気持ちから「手つだいをしているのでしょうか。少年の気持ちを最もよく表す一文を会話の中から抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問三

——線(3)「お前の乗りこんでいる舟には運がついている。」とありますが、具体的にはどのようなことをさしているのでしょうか。本文の表現を用いて五十字以内で説明しなさい。

問四

——線(4)「わかってるよ」とありますが、老人のわかったことを六十字以内で説明しなさい。

問五

——線(5)「おれたちにはそれができる。」とありますが、少年と老人は、互いに相手をどのように思っていますか。本文の表現を用いて二十五字以内で書きなさい。

問六

——線(6)「腰」とありますが、「腰」を用いた次の一〜五の慣用句の意味としてふさわしいものを、(意味)ア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 腰が低い
 - 二 腰を折る
 - 三 腰が重い
 - 四 腰を据える
 - 五 腰をぬかす
- (意味)
- ア 人に対していばらない。
 - イ ひどくびつくりする。
 - ウ どっしりとおちつく。
 - エ なかなか行動にうつさない。
 - オ とちゅうでじゃまをする。

問七

(7) に入る文として最もふさわしいものを次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 二つでもいい
- イ 一つでいい
- ウ 何もいらぬ
- エ 気をつかわなくていい

問八

本文の内容に合うものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 老人は三ヶ月近い不漁のために少年に飲み物をおごってもらうまになつてゐる。老人を内心では憂さ晴らしの対象にしている漁師たちは、表にはあらわさないが、漁に関する話ばかりしている少年と老人を軽くあしらつてゐる。
- イ 老人は不漁続きで、漁師仲間全員にからかわれてゐるが、それでも昔の夢を捨てきれずに意欲をみなぎらせてゐる。やせおとろえ、傷だらけの身体でも漁に出かけるが、人に気がねするようになつた自分に対して弱気になることがある。
- ウ 老人はかつて漁の名人であり、その証拠である両手の古い傷を少年は自分のことのように誇りに思つてゐた。しかし、今では漁を教えた少年にまで気がねするようになり、漁師仲間にも軽くみられてゐるが、単純な人間なので気にとめてゐない。
- エ 老人は不漁の日々が続いたが、眼には不屈な生気がみなぎつており、それは心の奥では希望と自信を失つてゐないことの表れである。ある日、人に気がねしてゐる自分に気づくが、本当の誇りを心に秘めてゐるので、不名誉であるとは思つてゐない。